

No. 322【2018年9月7日配信】

「43.10(よんさんとお)」から50年(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

歴史資料室では8月28日から企画展示「43.10(よんさんとお)から50年ー東北本線複線電化と青森市ー」を行っています。タイトルの「43.10」とは昭和43年(1968)10月1日に行われた日本国有鉄道(昭和62年に分割民営化され、JRグループなどが事業を継承)の大幅なダイヤ改正を指す言葉です。

このダイヤ改正は全国各地で線路の改良工事が進み、列車のスピードアップが可能になったことを受けて行われました。中でも東京と青森を結ぶ東北本線はその花形と言われています。

それはこの年の8月、東北本線全線が「複線電化」され、列車のスピードアップと輸送力の増強を図ることができたからです。「複線電化」とは線路の「複線化」と「電化」を合わせた言葉です。「複線化」とは単線(上り列車と下り列車が1つの線路を共用する状態)から複線(上り列車用と下り列車用にそれぞれ1本ずつ線路が設置された状態)へ変更することで、「電化」とは列車の動力を電気へ変更することです。

「複線化」により駅などで列車の行き違いを行う必要がなくなり、「電化」により電車特急が走るようになったことで、東北本線上野ー青森間の所要時間は2時間短縮され、運行本数も増加しました。

さて、青森市内では「複線電化」に伴って、東北本線野内ー青森間のルートが大きく変更されました。この区間は従来の線路に並行して線路を増設することが難しかったため、南へ迂回する新線(現青い森鉄道線)を設置することになったのです。



東北本線線路の変遷

- ①明治24年～大正15年の東北本線
- ②大正15年～昭和43年の東北本線
- ③昭和43年～の東北本線(平成22年に青い森鉄道へ移管)

野内ー青森間の新線への切り替えは昭和 43 年 7 月 21 日に行われました。同時に従来の線路は廃止され、野内ー青森間にあった浪打駅・浦町駅も閉業しました。2 つの駅には最終列車を見送るために多くの市民が集まり、浦町駅のホームでは浦町中学校吹奏楽部の生徒が「蛍の光」を演奏したそうです。



浦町駅のホームで演奏する
浦町中学校吹奏楽部の生徒

そして、新線の野内ー青森間には鉄道貨物輸送の拠点となる東青森駅が開業しました。また、新線への切り替え直後には、筒井小学校の児童が学校裏手の線路脇で金魚ねぶたを手に持ち、新線を走る列車を出迎えました。



新線を走る列車を出迎える筒井小学校の児童

企画展示は 9 月 30 日まで市民図書館 7 階で行っています。50 年前に閉業した浪打駅・浦町駅、開業したばかりの東青森駅などの貴重な写真を展示しておりますので、ぜひご覧ください。

※今回の内容は『ものがたり東北本線史』(1971 年 日本国有鉄道仙台駐在理事室)、『新青森市史』通史編第四巻 現代(2014 年 青森市)などを参考にしました。